

## アカンサス ニュース

第2号 1996(平成8年).5

「アカンサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)である。



## 「教養部改組」を終えて



学生部長 大場義樹  
(組織改革調整委員会委員長)

桜花爛漫でも冷春を恨む日々が続いた。昨年度末は教養部改組問題で激動を迎え、2月13日に組織改革調整委員会で教養部教官の最終的な分属案が提出されたが、舞台裏は連日コロコロ変わるといふ目まぐるしさであった。教養部教官はいわば被害者の立場にあるので、できるだけ当人の希望に沿って分属するよう努めたが多くの障害があり、当該教官の希望に沿えないまま、分属の運びとなった事例も少なくない。こうして教養部教官77名の分属及び教育学部14名の移籍作業が終わった。かりそめにも分属、移籍した教官が不利益な扱いを受けることがあっては断じてならない。

分属作業が終了して4月新学期の幕開けとなり、新設された「外国語教育研究センター」はもちろん、各部局も組織改革を伴う一大展

開を迎えることとなった。思い巡らせば大正7年の大学令の公布以来、第2次大戦後の学校教育法に基づく教育改革を経て、現在新しい改革の局面を迎えるに至り、多くの大学で懸命の改革作業に取り組んでいる。本学においても教養教育機構の設置とあいまって、どのような事態が招来するか予断を許さないものであるが、いずれ大学全体の大きな変革となるであろう。

種々の混乱が予想され、従来培ってきた学風が崩れることを懸念する声もあった。しかし混乱こそが革新の第一歩であるとの立場を堅持し、各部局で独自の新しい教育研究の世界を展開し、現在叫ばれている大学の危機を脱出せねばならない。



4月に「教養教育機構」が発足し、「全学出勤方式」による新しい教養教育実施体制がスタートした。  
写真は、「教養教育機構運営室」の室名札を掲げる岡田学長と畑運営委員長(右)＝総合教育棟1階で(4月1日撮影)





# 「大学改革」により新組織スタート

— 冊子「金沢大学の『大学改革』」も刊行 —

いわゆる金沢大学の「大学改革」として、まず4月1日、教育学部の学校教育教員養成課程や法・理・工学部の新学科などが発足し、併せて教養教育機構（学内措置）がスタートした。

なお、外国語教育研究センター、庶務部国際交流課、庶務部企画室は、平成8年度の予算成立を待って設置される。

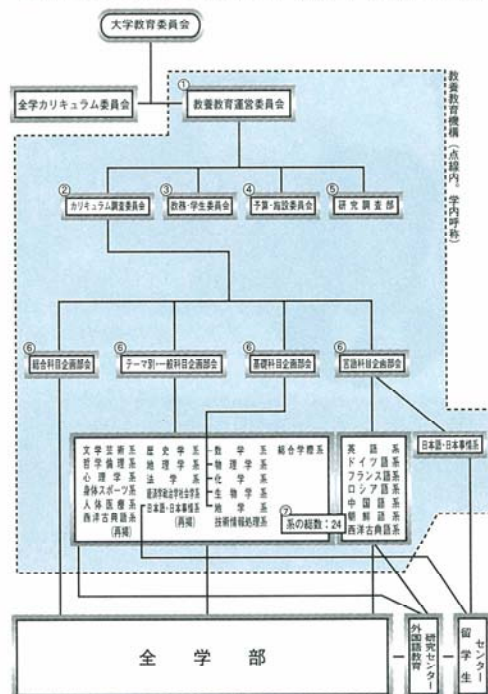
これらの組織改革を中心に、平成5年度からの「大学改革」について解説したパンフレットとして、このほど「金沢大学の『大学改革』」が刊行され、学内外に広く配布された。



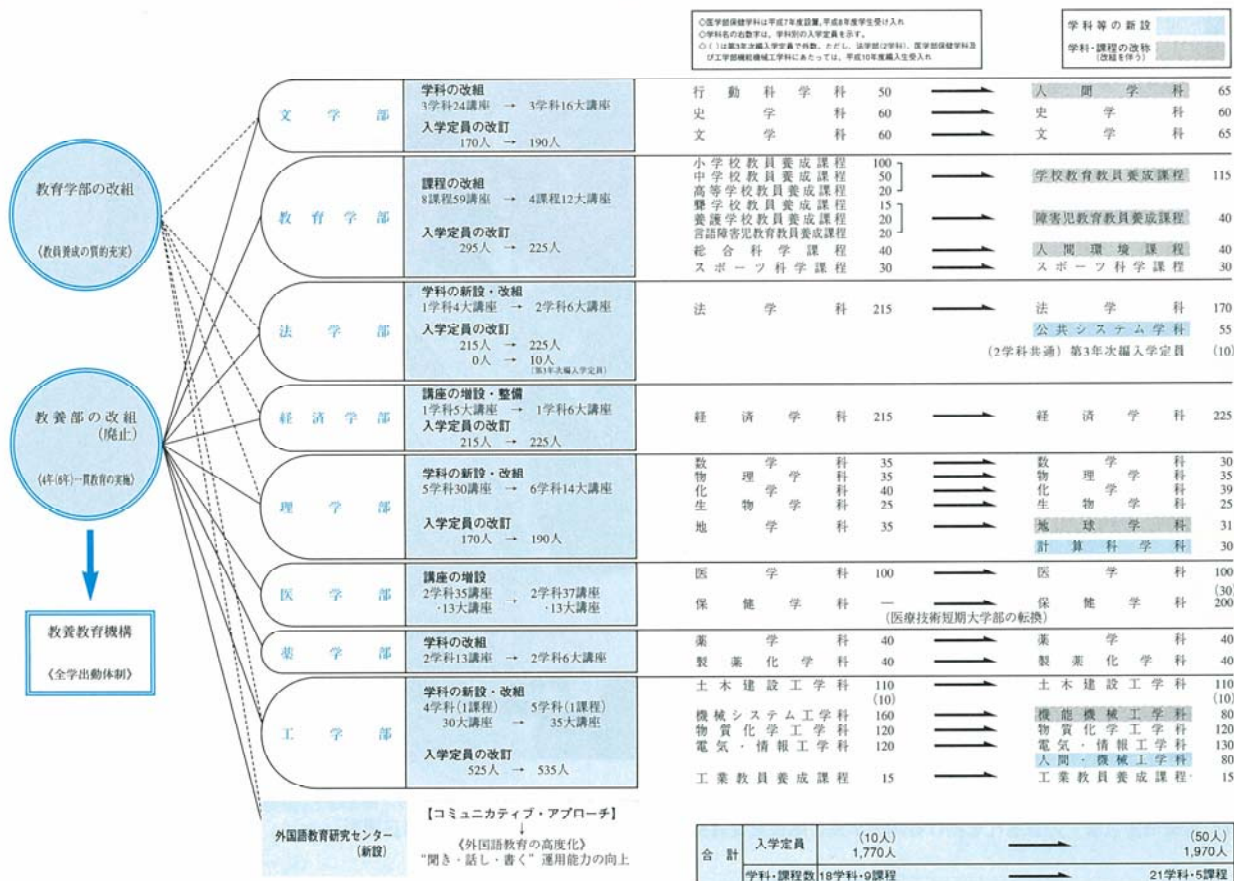
教養教育機構運営室関連の  
写真は、表紙にカラーで紹介

刊行されたパンフレット

## ●教養教育の実施体制図（平成8年度実施）



## ●教養部改組（廃止）を中心とした教育研究組織の改革図（平成8年度実施）







## 平成8年度入学宣誓式を挙行

4月10日、金沢市観光会館において平成8年度入学宣誓式が挙行され、学部・専攻科・別科の入学生合計2,053名が学生生活のスタートを切った。

また同日、会場を替えて大学院と医療短大部専攻科の入学宣誓式が、更に4月16日には大学院薬学研究科医療薬学専攻の入学宣誓式がそれぞれ行われた。

各入学宣誓式関連写真は、裏表紙にカラーで紹介



入学生を代表し、力強く宣誓する秋月玲子さん（文学部）  
＝4月10日午前、金沢市観光会館で

## 総合移転第Ⅱ期用地（角間）を取得



本学は3月29日、総合移転第Ⅱ期用地等として、これまでの角間キャンパスの西側の土地約109haを石川県土地開発公社から取得した。

これにより、平成8年度の「基本設計」を経て、総合移転第Ⅱ期計画事業がスタートすることになる。

第Ⅱ期用地等の境界線を示した写真は、7ページに掲載

時期を合わせて石川県に売却された旧・城内キャンパスの写真を、裏表紙にカラーで紹介

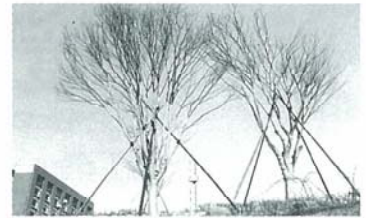
第Ⅰ期分と合わせ約200haに広がった角間キャンパスの全景  
＝平成7年4月撮影







## 『金沢大学の杜』づくりがスタート



4月29日のみどりの日、角間キャンパスで“『金沢大学の杜』開設記念式典”が開催された。この杜は、同キャンパスをアメニティーに富み市民に愛される場とする主旨で、「ゆかりの杜」「ふれあいの杜」「まなびやの杜（群）」の三つから構成されている。

現在は、金沢市等の協力を得て植えられた樹木を含め約430本が植栽されており（同日にも「新婚記念植樹」によりコブシ約100本を植樹）、いずれここが緑あふれるキャンパスとなることが期待される。

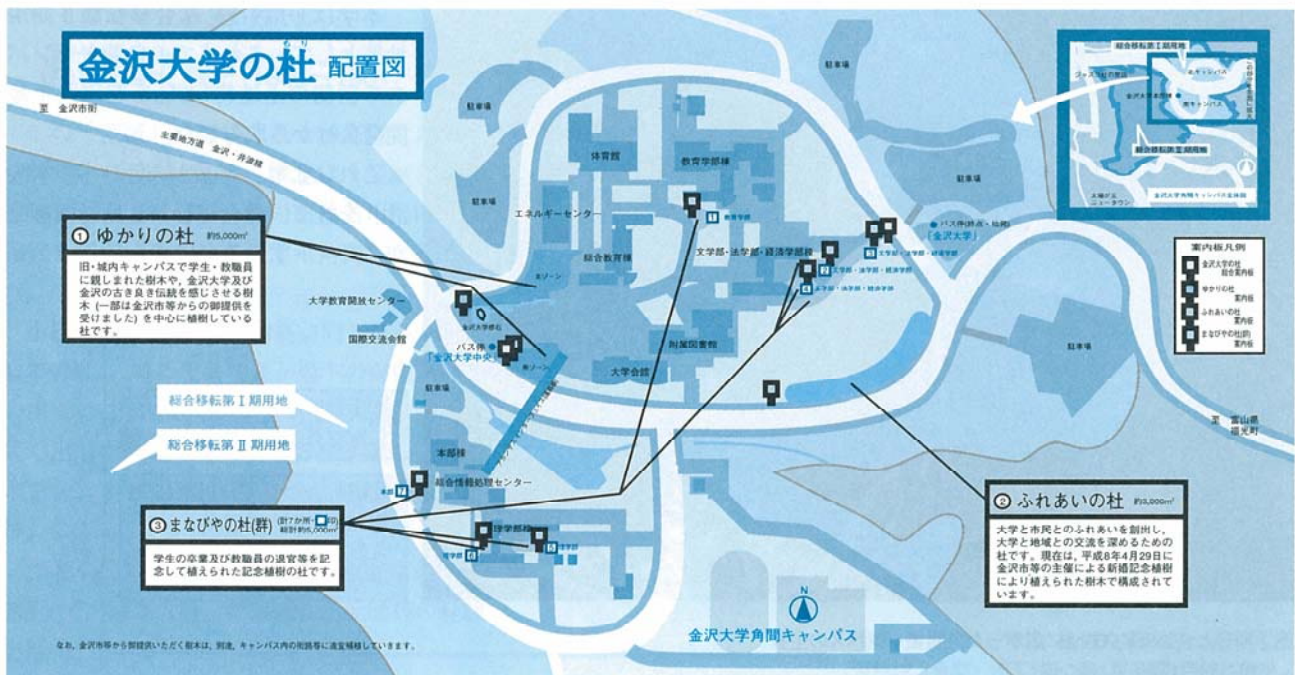


金沢市との共催行事で“みどりの都市宣言”をする参加者代表=4月29日午前、「ふれあいの杜」で

記念式典関連の写真は、裏表紙にカラーで紹介



案内板除幕式を終え、将来のキャンパス像を語り合う山出保・金沢市長(右)と岡田学長  
=4月29日午前、文学部・法学部・経済学部入口で



「金沢大学の杜」関連パンフレット（庶務課作成）から





## 暁烏記念式を開催

毎年恒例となっている「暁烏記念式」が4月23日、附属図書館（角間）AV室で開催され、暁烏家当主のあいさつの後、松田章一・教育学部附属高等学校副校長が「わが暁烏敏」と題して記念講演をした。



記念講演をする松田章一・附属高校副校長  
= 4月23日午後、附属図書館AV室で

## 自己啓発研修がスタート

本年度最初の研修として、4月18日、事務系職員を対象とした「自己啓発研修」がスタートした。これは、放送大学が開設する授業科目のビデオテープなどを教材とした15回の受講を中心とするもので、終了後に実施される試験により、同大学の単位2単位が認定される。



指定科目の一つ「地域社会と教育」を受講する受講生  
= 4月30日午前、大学会館(角間)第2中集会室で

## 総合情報処理センターがお披露目

角間キャンパスに竣工した総合情報処理センターで、4月24日、学内関係者への施設披露が行われ、須原正彦センター長が中心となり、実習室に置かれた機器や設備、ラウンジ利用の効果などを説明した。



施設を案内する須原正彦・総合情報処理センター長(右から3番目)  
= 4月24日午後、同センター第1実習室で

## 附属高校正門を一新

4月8日、教育学部附属高等学校では、入学式に合わせて正門の完成を祝う式が行われた。新しい門には書道家の横西霞亭氏（元附属中学校教諭）の揮毫が彫られた校名プレートも取り付けられた。



正門の除幕式でロープを引く横西氏（中央）と生徒会代表  
= 4月8日午前、附属高校（平和町）正門で

## 本学へのお客さま（4月）



◆徳永保・北九州市企画局長ほか（大学移転視察団一行）  
= 4月12日、本部特別会議室で

## 4月11日、雪が積もった



4月11日から翌12日にかけて、金沢市内で記録的に遅い積雪があり、角間キャンパスでは4～5cmの雪が降り積もった。遅すぎる名残雪に学生たちは心底驚いた表情であった。

自転車を押しながら家路に付く学生たち  
＝4月11日13時、角間キャンパスで

## MEX金沢'96(第34回機械工業見本市)に本学も参加



4月19日から4日間、県産業展示館で標記見本市が開催され、本学からは共同研究センターがパンフレット等を使って、研究協力体制などを企業人等にPRした。

同見本市は、金属工作・加工機械や電気・電子関連機器の流通促進と技術交流を図る目的で開催されており、本学の出品は今年で3回目。

共同研究に関して説明をする広瀬幸雄・理学部教授(左)  
＝4月20日、石川県産業展示館4号館で



# 紹 介

# Introduction

## 資料館コレクション(その1)

### 「至誠」

こまつのみやあきひと

(小松宮彰仁親王(1846～1901) 書)

この「至誠」の額は、長く四高講堂に掲げられていたものであり、講堂は「至誠堂」とも呼ばれた。その後、この額は石川門内での保管を経て、現在の資料館(角間)に移された。

小松宮殿下の2度目の四高訪問となった明治34年9月に、時の北条校長が殿下の御染筆を願い出たところ、快諾を得ることができ、後日差し出した数種の句の内から「至誠」の二文字を書き表わされた。出典は、中庸「至誠如神」による。

作者小松宮彰仁親王は、伏見宮邦家親王の第8子で、陸軍大将、参謀総長、元帥等の経験を持つ。

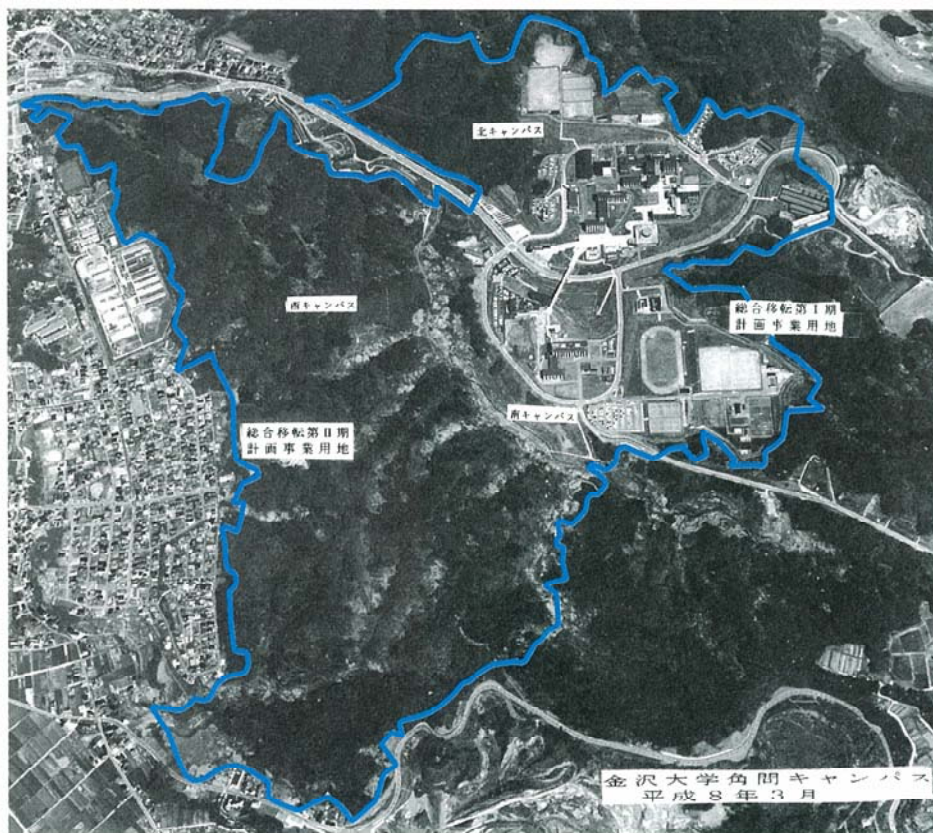


種類: 墨書 寸法: 縦180×横380×奥行10cm  
資料館(角間)地下1階の第1収蔵庫に収蔵中





## 総合移転第Ⅱ期計画事業用地に関する情報



角間キャンパスの新境界図

## 第Ⅱ期分等

- 取得面積 1,089.995m<sup>2</sup>
- 取得金額 82億円
- 取得年月日 平成8年3月29日

## 【参考：旧・城内地区跡地処分関係】

- 処分面積 217.667m<sup>2</sup>
- 処分金額 112億円
- 処分年月日 平成8年3月26日

【備考】重要文化財の「石川門」と「三十間長屋」の部分については、文化庁に所属替（4月1日）

## 〈本学職員の著書紹介コーナー〉

## 化学の目でみる「物質の世界」

関崎正夫（薬学部教授）  
本浄高治（理学部教授）  
宮城 陽（教育学部教授）  
ほか3名 共著

発行所：内田老鶴圃



本書は2部に分かれ、第Ⅰ部前半では、青銅器時代、錬金術、そして現代の化学結合論までを歴史の体裁でまとめている。また同部後半では、今日の化学の骨組みを築いている基本的な知識、すなわち物質の構造、性質、反応を理解するための基礎化学について簡単に解説し、第Ⅱ部では人間社会と物質との関わりについて解説している。図表も多く取り入れ、化学を専門としない学生を対象とした教科書として、活用が期待されている。

本コーナーに著書の掲載を御希望の方は、庶務課企画・広報係（電話64-5014）まで御連絡ください。

## 編集後記

創刊号をお読みいただいて、どのような感想をもたれたか不安は隠せない。

新入生を迎える4月、大場学生部長から巻頭言をいただいた。入学式に臨むりしく決意に満ちた学生諸君の姿に接し、ファインダーの向こうに明日の金沢大学を見たような気がした。

「新生・金沢大学」の下で学ぶすべての新入生が4年

（6年）後の卒業式には“金沢大学で学んで本当に良かった”と感想を持ってくれる『大学改革』であることを切に願うところである。

岡田学長は、「情報とは情けの知らせの意味である。」と話されている。我々も精神誠意真心を込めた情報を皆様にお知らせしなければと考える。乞う！御意見、御感想。  
（西田）





このページには、カラーで紹介するのに  
ふさわしい写真を集めています。

## 華やかな入学式でのスナップ

(関連記事は3ページ)



校歌を斉唱する金沢大学合唱団  
= 4月10日午前、金沢市観光会館で



エルガー作曲「威風堂々」を演奏する金沢大学フィルハーモニー管弦楽団  
= 4月10日午前、金沢市観光会館で



入学宣誓する法学研究科の合田篤子さん  
= 4月10日午前、医学部十全講堂で



大学院薬学研究科の久保田晃さん  
= 4月16日午前、本部特別会議室で



学長告示を聞く学部入学生  
= 4月10日午前、金沢市観光会館で



医療短大部助産学専攻の福岡玲子さん  
= 4月10日午前、同短大会議室で



今や親しんだ桜の花も懐かしく感じられる旧・城内キャンパス  
= 4月23日撮影 (同キャンパス処分関連記事は7ページ)



金沢市等主催による「平成8年度新婚記念植樹」の風景  
= 4月29日午前、「ふれあいの杜」(角間)で  
(「金沢大学の杜」関連記事は4ページ)

平成8年5月17日発行  
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-11 金沢市角間町

金沢大学庶務部庶務課  
企画・広報係

TEL 0762-64-5014

FAX 0762-34-4010